

桐生市立商業高等学校（定時制）

学 校 評 価 一 覧 表 ①（令和３年度版）

（様式１）

羅 針 盤			方 策	第１回 点検・評価			第２回 点検・評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	１ 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、85%以上である。	・積極的に声かけをするなど、日頃から生徒の様子に注意を払い、学校生活を支える。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・生徒、保護者の97%が楽しく学校生活を送ることができていると回答している。今後も生徒の学校生活を支える取り組みを継続したい。	A	A	・生徒、保護者とも97%が楽しい学校生活を送っていると回答している。各担任を中心に生徒の様子を注意深くとらえ、対処を続けていきたい。
		②球技大会や地区体育大会等の特色ある学校行事に、生徒の85%以上が満足している。	・生徒会行事では、生徒会役員を中心とした企画の立案・運営を実践する。 ・地区定通制高校との連携を強化する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・生徒の93%、保護者の91%が学校行事に積極的に参加できていると回答している。今後も感染症対策等を怠らず、魅力ある学校行事の運営に努めたい。	A	A	・生徒の94%、保護者の93%が学校行事に積極的に参加していると回答している。担当する係職員・生徒を中心に、来年度以降さらに充実した学校行事ができるよう考えていきたい。
		③総合的な探究の時間（「ふれあいの時間」）に、主体的に取り組んでいる生徒の割合が、85%以上である。	・「ふれあいの時間」では他学年の生徒との交流や、各自が設定したテーマに沿って、積極的な活動ができるように支援する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・総合的な探究の時間について、生徒の100%、保護者の97%が積極的に取り組んでいると回答している。今後も生徒各自の活動を深めるとともに、他学年の生徒との交流の中で協調性を育てていきたい。	A	A	・総合的な探究の時間について、生徒の94%が積極的に取り組んでいると回答しているが、取り組み方にやや個人差が出てきたことも事実である。来年度の課題として、目標設定の仕方や活動内容の改善などが必要と思う。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	２ 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業に対する生徒の評価を実施して、授業改善を推進する。「授業が分かりやすい」と回答する生徒の割合が90%以上である。	・生徒の実態に応じた協働的な学習（学び合い学習）を実践する。 ・カウンセリングマインドに立った授業改善に努める。 ・ＩＣＴの活用を推進する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・「分かりやすい授業が行われている」と回答した生徒・保護者はともに97%であった。生徒の実態に即した授業が取り組まれ、双方向のやりとりができる授業展開を進めていきたい。	A	A	・「分かりやすい授業が行われている」と回答した生徒・保護者は約9割である一方、難しさを感じている生徒もいる。今後は生徒の特性に応じた個別最適化な授業となるような方策を、職員間で共有する必要がある。
		⑤簿記や情報など資格取得に向けた指導に生徒の80%以上が満足している。	・各種検定試験合格に向けた授業等を工夫する。 ・生徒の実態に応じて、補習や課題を実施する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・「資格取得に向け意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が87%であった。２学期末から本格的な資格取得シーズンに入り、補習等で継続的に支援したい。	A	A	・コロナ禍の影響を受け、実習科目の授業時間も減り、昨年度よりも合格圏にいる生徒の申込みが少なかったように思える。積極的に声がけをして前向きに検定試験に取り組む姿勢を築いていく。
	３ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥定期テストや検定試験のために学習をする生徒の割合が、80%以上である。	・学習の基礎・基本の定着のための授業内容及び指導法の改善を図る。 ・定期試験直前や試験中の家庭学習を促す指導を継続する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	B	B	・「定期テストや検定試験のために学習をする」と回答した生徒が74%であり、学習に前向きに取り組んでいる。今後、動機付けを高めていけるような方策を検討したい。	B	B	・具体的数値目標の⑤と⑥の評価に相関関係がみられるように思える。⑤と⑥の指導上の留意点を再度見直していきたい。今後は学習への動機付けを高める方策を教科を超えて考える必要がある。
		⑦成績不振科目のある生徒の割合が5%未満である。	・単位の履修・修得の重要性を認識させ、不振科目をなくすための指導を、各学期ごとに全校集会等で行う。	D		・１学期に成績不振科目を持つ生徒の割合は20.5%であった。成績による不振よりも多欠席が原因となっていることが現状である。基本的な生活習慣を身につけることから始めていきたい。	D		・成績不振科目を持つ生徒は若干名減ってはいる。今後も養護教諭やＳＣ等の助言を参考に、生活習慣の改善を図りたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	４ 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧職員打ち合わせ等において、生徒に関する情報交換を毎日実施している。	・毎日の職員打ち合わせや週１回の連絡調整会議において生徒に関する情報交換を行い全職員間での共通理解を図る。	A		・今後も組織的な生徒理解に努め、諸課題に対して適切かつ迅速に対応する。	A		・職員打ち合わせだけでなく、連絡調整会議を実施し、議事録を残すことで十分な情報共有を図っている。

		⑨学校の生活指導（あいさつ、頭髪・服装、遅刻・早退指導等）が適切であると回答する生徒・保護者の割合が90%以上である。	・全生徒が充実した学校生活を送ることができるよう丁寧な指導・支援を継続する。 ・生徒及び保護者を対象としたアンケート調査により実態を把握する。	A	A	・生徒の93%、保護者の97%が適切であると回答し、本校の指導に理解を示している。今後も生徒の気持ちに寄り添った指導を心がけ、生徒、保護者ともに100%となるよう取り組む。	A	A	・生徒の97%、保護者の91%が適切であると回答し、本校の指導に理解を示している。今後も生徒の気持ちや実態に寄り添った指導を心がけ、生徒、保護者ともに100%となるよう取り組む。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が90%以上である。	・月1回の「生活アンケート」や定期的な個人面談等を実施し、その結果を毎日の職員打ち合わせや週1回の連絡調整会議において全職員で共有することで、全職員で全生徒を指導する体制を確立する。 ・SNSの適切な利用法に関する教育、情報モラル教育を強化する。	A	A	・全生徒（100%）が適切に行われていると回答している。100%の維持を目指して取り組む。	A	A	・生徒の97%が適切に行われていると回答している。今後も月1回の生活アンケートや定期的な個人面談を継続するとともにいじめの防止や早期発見に向けた生徒主体の取り組みを充実させ、全生徒（100%）が適切に行われていると回答するよう取り組む。
		⑪いじめの解消率が100%である。	・いじめや嫌がらせ行為が疑われる場合は、桐生市立商業高等学校いじめ防止委員会（定時制課程）が迅速かつ組織的に対応する。	A	A	・アンケート調査や面談を通して、いじめ事案の把握に努めたが、いじめの発生は認められなかった。今後も未然防止、早期発見・早期解決を意識して組織的な対応を行っていく。	A	A	・アンケート調査や面談を通して、いじめ事案の把握に努めたが、いじめの発生は認められなかった。今後も未然防止、早期発見・早期解決を意識して組織的な対応を行っていく。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫欠席率が10%以下、遅刻率が5%以下である	・欠席率、遅刻率、早退率を把握する。 ・欠席、遅刻、早退に係る家庭への迅速な連絡を徹底し、保護者に協力と理解を求める。 ・欠席の理由や背景を保護者と共通理解し、状況に応じた指導及び家庭と連携した指導の充実を図る。 ・定期的な登校時指導や遅刻防止指導を行う。	C		・1学期の欠席率は13%、遅刻率は5.1%、早退率は0.6%であった。生徒の実態に配慮しつつ、家庭と連携し数値の改善を図りたい。 ・保護者との連携や生徒への声かけ等、学校全体で継続的に取り組む。	C		・2学期の欠席率は13.5%、遅刻率は6.9%、早退率は0.2%であった。生徒の実態に配慮しつつ、家庭と連携し数値の改善を図りたい。 ・保護者と連携や生徒への声かけ等、学校全体で継続的に取り組む。
⑬交友関係がうまくいっていると感じている生徒の割合が、90%以上である。		・養護教諭やS Cを含めた教育相談体制を確立し、生徒の立場から相談しやすい人間関係を構築する。 ・学校あるいは外部機関における相談窓口を生徒及び保護者に積極的に周知する。 ・生徒を対象としたアンケート調査により、実態を把握する。	A			A			・全生徒（100%）がうまくいっていると回答している。生徒同士が互いに尊重し、共感的に理解し合うことができる良好な人間関係の構築を目指し、支援を継続したい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭「自己の生き方」と「将来の職業」とを関連させた進路指導を行っている、生徒の90%以上が評価している。	・外部機関と連携した定期的な進路ガイダンスやLHRにより系統的なキャリア教育を実施する。 ・就業の促進と就業経験を生かした進路指導を行う。	A	A	・「計画的な進路指導を行っている」と回答した生徒が100%、保護者が88%であった。今後も、生徒が進路に関心を持ち、積極的に取り組めるよう計画していきたい。	A	A	・「計画的な進路指導を行っている」と回答した生徒が100%、保護者が87%であった。保護者に対して、連絡文書やホームページなど、生徒の活動がより見える工夫をしていきたい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「将来の目標を持ち、積極的に取り組んでいる」生徒が、80%以上である。	・個別面談を実施して各学年の段階に即した、きめ細かい指導を実践する。 ・全日制進路指導部やハローワークと連携し、進路資料等を有効に活用する。	C		・「将来の目標を持ち、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が58%であった。生徒が受け身から主体的に取り組めるような工夫が必要である。	B		・「将来の目標を持ち、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が65%であった。キャリア・パスポートや進路ガイダンスなどを通じて、生徒の意識を高めることができた。今後も個に応じたきめ細かな支援をしていきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯保護者面談等に積極的に参加している保護者の割合が80%以上である。	・PTA総会、保護者面談の案内・返事の確認を徹底する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	・保護者面談はほぼすべての保護者が参加している。今後とも保護者と連携し、開かれた学校づくりに努めていきたい。	B	B	・76%の保護者が学校からの配布物を見ていると回答している。今後も紙媒体とホームページを活用して、情報を発信していきたい。

		⑰Webページの変更があったとき、速やかに更新している。	・在校生の活動状況や入試情報を閲覧しやすくする。	B	・7月にホームページがリニューアルされてから、毎月の予定や各行事やたよりなどを逐次更新できている。	A	・ホームページの閲覧は、1回目のアンケートに比べ、生徒の閲覧は減少し、保護者の閲覧は増加した。ホームページの閲覧を促す、興味・関心を持てる内容を工夫していきたい。
		⑱Webページを見たことがある保護者の割合が80%以上である。	・ホームページの更新を逐次行い、デザインを工夫する。また、重要な連絡や身近な出来事を掲載し閲覧を促す。 ・配布物にQRコードを載せ、ホームページの閲覧を促す。	B C	・生徒の74%、保護者の44%が見ていた。7月にホームページがリニューアルされた。8月中旬に各ページの更新作業を終え、内容を充実させたい。 ・配布書類にQRコードの添付をするなど、工夫していきたい。	B B	・生徒の65%、保護者の60%が見ていた。リニューアル後の保護者の閲覧が増えたが、生徒の閲覧は減少してしまった。生徒や保護者が関心を持てるよう、部活動の記事や各種たよりの工夫を図りたい。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲PCやプロジェクターなどを活用し、授業を行っている教員が90%以上である。	・パソコン周辺機器の充実を図り、ICT機器が効果的に利用できるように工夫する。	A	・教室に設置されたWi-Fi環境を活用し、情報の可視化によるわかりやすい授業が取り組めるように努めている。	A	・授業でのICT活用は、パソコンとプロジェクターの利用を中心に定着しているが、今年度から配布された生徒用タブレットはまだ十分活用されているとは言えず、今後、各授業での活用を推進したい。
		⑳ワードで文書を作成したりエクセルで表を作成したりすることができる生徒が100%である。	・商業科目の授業で、基本的なアプリケーションの操作や知識を指導する。	A	・タブレット学習を効果的に学ぶため、データ入力的基础が身につく学習を進めている。	A	・商業科目の授業でワードやエクセルの基本を習得できているが、より発展的な学習も目指せるようにしたい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑分掌業務でICTを活用できている教員が100%である。	・校内ネットワークを活用し、情報の共有化・可視化を図る。 ・日程変更や緊急連絡等を桐生市ふれあいメールを活用し、情報を共有する。	A	・分掌業務や成績処理においてICTを活用し、情報の共有化ができている。	A	・ICT活用を図るためのデータベース化を推進したい。

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値目標について評価し、次に従いアルファベットで記入した。
A：数値目標達成 B：約80%達成 C：約60%達成 D：約40%達成